

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所

162-0805 東京都新宿区矢来町 65

電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175

発行者 総主事 司祭 矢萩新一

## 「上にあるもの」

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

「さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。」(コロサイ3:1)

ドラマなどで大変な時代を切り抜けてきたことを表現するために、戦時中の場面がよく用いられ、「非国民」とか「お国のために」という言葉が飛び交います。私たちは、何となくおかしいとは感じながら、もやっとした大きな時代の流れや雰囲気にならされてしまいがちです。そんな時、お国のためではなく『み国のために』という感覚を持っている私たちは、過去の反省に立ち、しっかりと考え、行動する使命が与えられています。

自分たち優先・お国のためと、憲法を変えたい人たちは、『公共の福祉』という言葉や、「公益及び公の秩序」という「わかりやすい」言葉に置き換えると主張しています。福祉と秩序では、その言葉が目指そうとするところが異なり、下からの支えというよりは、上からの押さえという意味合いに置き直す意図を感じます。弱い立場よりも一部の強い立場が優先される、その秩序を乱す者は排除されなければならないという雰囲気が作り出されてしまわないでしょうか。

自戒も込めてですが、頭ではわかっているつもりなのに、言葉ではもっともらしいことを口にしていて、という場面を経験したり、思ったりします。言い訳をしてみたり、約束を反故にしてみたり、誰かのせいにしてみたりと。そんな誰もが心当たる弱さや至らなさを引き受けて、イエスさまは十字架に死なれ、復活してください。

復活のイエスさまに従おう、倣おうとする私たちは、本当に価値のある、一人ひとりを大切に愛して下さる「上にあるもの」を見つめながら歩む者でありたいと願います。

年度の変わり目、新しい出会いや歩みが祝福されたものでありますように。主のご復活をお喜び申し上げます。

## □会議・プログラム等予定

(2018年3月25日以降)

### 3月

27日(火) 管区共通聖職試験委員会〔管区事務所〕

27日(火) 神学教理委員会〔管区事務所〕

### 4月

4日(水) 会計監査〔管区事務所〕

12日(木) 常議員会〔管区事務所〕

13日(金) 第64(定期) 総会書記局会議〔管区事務所〕

16日(月)～17日(火) 日韓協働委員会フィールドワーク〔東京・川越〕

18日(水) 日韓協働合同会議〔管区事務所〕

19日(木) 祈祷書改正委員会〔管区事務所〕

19日(木) 青年委員会〔管区事務所〕

23日(月)～24日(火) 正義と平和・憲法プロジェクト〔名古屋〕

26日(木) 正義と平和委員会〔京都〕

### 5月

1日(火) 正義と平和・ジェンダープロジェクト〔管区事務所〕

11日(金) ウィリアムズ主教記念基金運営委員会〔立教〕

14日(月) 原発問題プロジェクト・国際協議会準備会〔管区事務所〕

15日(火) 正義と平和・沖縄プロジェクト〔沖縄・三原聖ペテロ聖パウロ教会〕

22日(火)～24日(木) 新任人権研修会〔熊本〕

24日(木) 人権問題担当者会〔熊本〕

31日(木) 文書保管委員会〔管区事務所〕

### <関係諸団体会議・他>

3月30日(金) 日本宗教連盟宗教文化セミナー〔神道大教会〕

4月3日(火) NCC 宣教会議プレ集會実行委員会〔管区事務所〕

6日(金) 聖公会社会福祉連盟東部幹事会〔管区事務所〕

12日(木) NCC 役員会〔早稲田〕

13日(金) 九州地震記念礼拝〔熊本聖三一教会〕

(次頁へ続く)

## 公 示

日本聖公会第64(定期)総会を下記のように招集いたします。

本総会期中に横浜教区主教選挙を行います。

救主降生 2018年3月7日  
日本聖公会 総会議長  
主教 ナタナエル 植松 誠 ㊞

### 記

第64(定期)総会

日時 2018年6月5日(火) 10時から  
6月7日(木) 17時まで

場所 日本聖公会センター(牛込聖公会聖バルナバ教会礼拝堂)

〒162-0805 東京都新宿区矢来町 65 番地

以上

(前頁より)

17日(火) 同宗連総会〔カトリック関口教会〕

23日(月) 日本キリスト教連合会常任委員会・総会・講演会〔バルナバ教会〕

23日(月)～25日(水) 外キ協国際シンポジウム〔ソウル〕

5月14日(月) 部キ連総会〔大阪〕

# Alleluia

## 第64(定期)総会期書記局

### 書記長

司祭 斎藤 徹(北関東)

### 書記

司祭 渡部 明央(横浜)

執事 平岡 康弘(北関東)

司祭 太田 信三(東京)

司祭 北澤 洋(横浜)

執事 窪田真人(横浜)

## 第64(定期)総会代議員

北海道	聖職	ペテロ大町信也	クリストファー永谷 亮
	信徒	ヨハネ津田武典	ダニエル尾関敏明
東北	聖職	アントニオ影山博美	ステパノ越山哲也
	信徒	バルナバ赤坂有司	ヨセフ長井 淳
北関東	聖職	エレミヤ・パウロ木村直樹	パウロ矢萩栄司
	信徒	パウロ横川 浩	マルコ谷川 誠
東京	聖職	ニコラス中川英樹	マリア・グレイス笹森田鶴
	信徒	テレジア黒澤圭子	ヤコブ後藤 務
横浜	聖職	イグナシオ入江 修	バルナバ田澤利之
	信徒	テモテ中林三平	グレース村井恵子
中部	聖職	テモテ土井宏純	アシジのフランシス西原廉太
	信徒	クリスティヌ池住 圭	ヨハネ牛島達夫
京都	聖職	セシリア大岡左代子	バルナバ小林 聡
	信徒	アイレネ佐々木靖子	リリアン木川田道子
大阪	聖職	テモテ内田 望	ペテロ竹林徑一
	信徒	ルデヤ辻 節子	パウロ小池義郎
神戸	聖職	ヨハネ芳我秀一	パウロ上原信幸
	信徒	ジョージ大東正人	パウロ宮永好章
九州	聖職	バルナバ牛島幹夫	ヨハネ李 浩平
	信徒	ハンナ東 美香子	パウロ細川眞二
沖縄	聖職	ヨハネ戸塚鉄也	イザヤ金 汀洙
	信徒	アンデレ富本盛彦	モニカ角田千代美

## □常議員会

第62(定期)総会第10回 2018年2月20日(火)

<主な協議事項>

- 被包括法人規則変更等承認について、下記の通り承認した。
  - ・宗教法人「日本聖公会横浜教区」規則変更
  - ・宗教法人「日本聖公会大阪教区」規則変更
- 財政主査・年金維持資金管理委員、内田研吾氏(東京)の委員退任について承認した。
- 海外出張承認について、下記の通り承認した。
  - ・4/16-20 インド ACRP 執行委員会 首座主教 植松 誠
  - ・4/23-25 ソウル 外キ協国際シンポジウム 管区事務所総主事 司祭 矢萩新一
- 正義と平和・原発問題プロジェクトから提出された予算案について協議し、これを承認した。
- ハラスメント防止・対策担当者に関する申し入れについて協議し、常議員会として返答文を作成することとした。

次回会議:4月12日(木)

## □各教区

北関東

- ・聖職按手式 3月24日(大斎節第5主日後の土曜日)11時 「小山祈りの家」礼拝堂  
説教:司祭 バルナバ関 正勝(東京・退) 執事按手:志願者 聖職候補生 マルコ福田 弘二

東京

- ・3月21日(水・休)の主教選挙では、当選者を得られなかった。

横浜

- ・教区公示の誤植訂正  
正 第79(臨時)教区会 3月3日(土) 10

## 公 示

救主降生 2018年3月1日  
日本聖公首座主教  
主教 ナタナエル植松 誠 ㊦

日本聖公会横浜教区、教区主教 ローレンス 三鍋裕 師父の定年退職にともない、下記の通り管理主教を委嘱いたします。

## 記

日本聖公会法規第10条第1項により、日本聖公会中部教区主教 ペテロ 洪澤 一郎 師父に、日本聖公会横浜教区の管理主教を委嘱する。任期は、2018年4月1日より、次期横浜教区主教就任の日までとする。

以上

時半～ 横浜教区主教選挙のため

誤 第79(臨時)教区会 3月3日(土) 9

時半～ (管区事務所だより第329号)

## □神学校

聖公会神学院

- ・2018年度入学礼拝 4月3日(火) 14時  
聖公会神学院諸聖徒礼拝堂 司式:校長 司祭 佐々木道人 説教:専任教員 司祭 中村邦介 新入生:エリザベト三浦千晴(北海道)

ウイリアムス神学館

- ・2018年度入学礼拝 入学者がないため予定していません。

†逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 ヨハネ山根貞夫師(大阪・退職)  
2018年3月22日(木) 逝去(90歳)

## 《人事》

## 北海道

司祭 ハンナ石坂みゑ子	2018年3月31日付	道北教区協働司祭の任を解き、定年退職とする。
主教 ナタナエル植松 誠	2018年3月31日付	小樽聖公会管理牧師の任を解く。
司祭 ペテロ大町信也	2018年3月31日付	室蘭聖マタイ教会管理牧師の任を解く。
司祭 ヘレン木村夕子	2018年4月1日付	留萌キリスト教会及び深川聖三一教会協働司祭に任ずる。(任期1年)
司祭 クリストファー永谷 亮	2018年3月31日付 2018年4月1日付	小樽聖公会副牧師の任を解く。 小樽聖公会牧師及び帯広聖公会協働司祭に任ずる。
司祭 サムエル吉野暁生	2018年3月31日付 2018年4月1日付	室蘭聖マタイ教会協働司祭の任を解く。 室蘭聖マタイ教会管理牧師に任ずる。
司祭 パウロ内海信武(退)	2018年4月1日付	平取聖公会及び新冠聖フランシス教会での嘱託司祭、またバチラー保育園チャブレンを委嘱する。(任期1年)
司祭 アンデレ甲斐博邦(退)	2018年4月1日付	道北分区における協働司祭及び深川あけぼの保育園チャブレンを委嘱する。(任期1年)
司祭 ダビデ藤井八郎(退)	2018年4月1日付	函館聖ヨハネ教会及び今金インマヌエル教会での嘱託司祭を委嘱する。(任期1年)
聖職候補生志願者 エリザベト三浦千晴	2018年4月より	聖公会神学院にて、向こう3年間の勉学を命ずる。

## 東北

<信徒奉事者認可>	2018年3月1日付	
(大館聖パウロ教会)		クララ小田切光子、マルタ田畑瑠美子、ヨセフ佐藤 進
(山形聖ペテロ教会)		ミカエル八柳和夫、マタイ山崎 薫、サラ涌井則子

## 北関東

司祭 ガブリエル西海雅彦	2018年3月31日付 2018年4月1日付	日光真光教会協働牧師の任を解く。 日光真光教会管理牧師を命ずる。
司祭 サムエル輿石 勇(退)	2018年4月1日付	榛名聖公会嘱託勤務および前橋聖マッテア教会嘱託勤務を委嘱する。(任期1年)
司祭 アンデレ斎藤英樹(退)	2018年4月1日付	毛呂山聖霊教会嘱託勤務および栃木聖アルバン教会嘱託勤務を委嘱する。(任期1年)
司祭 ヤコブ八戸 功	2018年3月31日付	定年により退職とする。
司祭 ヤコブ八戸 功(退)	2018年4月1日付	熊谷聖パウロ教会嘱託勤務(定住) および高崎聖オーガスチン教会嘱託勤務を委嘱する。(任期1年)
伝道師 アンブローズ久保田 智	2018年3月31日付	定年により退職とする。
伝道師 アンブローズ久保田 智(退)	2018年4月1日付	日光真光教会嘱託勤務を委嘱する。(任期1年)

聖職候補生 ミカエル大山洋平	2018年4月1日付	榛名聖公会の勤務を命ずる。
主教 ゼルバベル広田勝一	2018年3月31日付 2018年4月1日付	日光真光教会管理牧師の任を解く。 高崎聖オーガスチン教会および熊谷聖パウロ教会の管理牧師を任命する。
聖職候補生 マルコ福田弘二	2018年3月24日	公会の執事に接手される。
<b>横浜</b>		
主教 ペテロ洪澤一郎(中部)	2018年4月1日付	横浜聖クリストファー教会管理牧師、松戸聖ペテロ教会管理牧師、柏聖アンデレ教会管理牧師、茂原昇天教会管理牧師、八日市場聖三一教会管理牧師、南三原聖ルカ教会および鴨川聖フランシス教会管理牧師に任命する。
<b>京都</b>		
司祭 ヨハネ石塚秀司	2018年3月3日付	聖アグネス教会管理の委嘱を解く。
執事 ダニエル鈴木恵一	2018年3月3日	公会の司祭に接手される。
司祭 ダニエル鈴木恵一	2018年3月3日付	聖アグネス教会牧師補の任を解く。 聖アグネス教会牧師に任命する。
司祭 ヨハネ黒田 裕	2018年3月3日付	京都聖ヨハネ教会管理の委嘱を解く。
執事 パウラ麓 敦子	2018年3月3日	公会の司祭に接手される。
司祭 パウラ麓 敦子	2018年3月3日付	京都聖ヨハネ教会牧師補の任を解く。 京都聖ヨハネ教会牧師に任命する。
聖職候補生 ルカ柳原健之	2018年3月3日	公会の執事に接手される。
執事 ルカ柳原健之	2018年3月3日付	富山聖マリア教会牧師補に任命する。
聖職候補生 アンデレ松山健作	2018年3月3日	公会の執事に接手される。
執事 アンデレ松山健作	2018年3月3日付	聖光教会牧師補に任命する。
<b>大阪</b>		
司祭 ヨハネ奥 康功(退)	2018年4月1日付	2018年2月1日付公示人事を取り消し、改めて下記の人事異動を発令。 大阪聖ヨハネ教会、聖ガブリエル教会、堺聖テモテ教会において嘱託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)
<b>九州</b>		
司祭 ミカエル李 相寅	2018年3月31日付 2018年4月1日付	八幡聖オーガスチン教会管理牧師の任を解く。 八幡聖オーガスチン教会牧師を任命する。
司祭 デビッド・A・コフリン(退)	2018年4月1日付	牧師司祭ミカエル李相寅のもと、小倉インマヌエル教会主日礼拝協力を委嘱する。(任期1年)
司祭 パウロ濱生正直(退)	2018年4月1日付	管理牧師主教ルカ武藤謙一のもと、福岡聖パウロ教会嘱託司祭として勤務することを委嘱する。また、牧師司祭バルナバ牛島幹夫のもと戸畑聖アンデレ教会主日礼拝協力および草ヶ江幼稚園チャプレンを委嘱する。(任期1年)

司祭 キャサリン吉岡容子(退)	2018年4月1日付	管理牧師主教ルカ武藤謙一のもと、宗像聖パウロ教会囑託司祭として勤務することを委嘱する。また、牧師司祭ミカエル李相寅のもと八幡聖オーガスチン教会主日礼拝協力を委嘱する。(任期1年)
司祭 ダビデ中島省三(退)	2018年4月1日付	管理牧師司祭フランシス小林史明のもと、鹿児島復活教会囑託司祭として勤務することを委嘱する。また、牧師司祭テモテ山崎貞司のもと、大口聖公会主日礼拝協力および大口幼稚園チャプレンを委嘱する。(任期1年)
司祭 ビンセント原 寛(退)	2018年4月1日付	牧師司祭テモテ山崎貞司のもと、熊本聖三一教会主日礼拝協力を委嘱する。(任期1年)
司祭 バルナバ壹岐裕志(退)	2018年4月1日付	牧師主教ルカ武藤謙一のもと、福岡ベテル教会主日礼拝協力、および管理牧師マルコ柴本孝夫のもと佐賀聖ルカ伝道所主日礼拝協力を委嘱する。(任期1年)
主教 ルカ武藤謙一	2018年3月31日付 2018年4月1日付	福岡ベテル教会管理牧師の任を解く。 福岡ベテル教会牧師に任命する。

### 沖縄

聖職候補生 ヨシユア上原成和	2018年3月21日	公会の執事に按手される。
司祭 クララ咸 允淑	2018年4月1日付	小祿聖マタイ教会主日勤務を命ずる。
執事 ヨシユア上原成和	2018年3月31日付 2018年4月1日付	三原聖ペテロ聖パウロ教会勤務の任を解く。 管理牧師主教上原榮正のもと小祿聖マタイ教会牧師補および聖マタイ幼稚園チャプレンを命ずる。

### 《教会・施設》

セシリア宮崎真琴(横浜)	2018年4月1日付	市川聖マリヤ幼稚園の園長に任命する。
(学) プール学院大学	2018年4月1日付	名称変更 桃山学院教育大学 (設置者が学校法人桃山学院となるため)
(学) プール学院大学短期大学部	2018年4月1日付	名称変更 プール学院短期大学 (引き続き学校法人プール学院が運営する)

### ◇訂正とお詫び

管区事務所だより第330号《人事》 P.6 大阪教区山本眞司祭の定年退職日が誤っていました。

### 大阪

(誤) 司祭 施洗者ヨハネ山本 眞	2018年3月1日付	定年により退職とする。
(正) 司祭 施洗者ヨハネ山本 眞	2018年3月31日付	定年により退職とする。

お詫びして訂正いたします。

## 2018 沖縄週間 / 沖縄の旅 ご案内

## 命どう宝

～キリストを生きる～

『何事も利己心や虚栄心からするのではなく、  
へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、  
めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。』

(フィリピの信徒への手紙2：3-4)

日 程：2018年6月22日(金)～25日(月)

正義と平和委員会 沖縄プロジェクト 司祭 ヨシュア 長田吉史

沖縄は今も、日米両政府の経済的・軍事的政策に利用され、住民の生活は脅かされ続けています。これは明らかな人権侵害であり差別にほかなりません。ことに、昨年2017年12月に米軍ヘリコプターが落下音とともに保育園で発見される事件、またその数日後には飛行中の米軍ヘリコプターから小学校の校庭に窓が落下するという明らかな事故が起こりました。そして今年に入ってから次々と不時着(墜落)事件が発生し、今までにない異常事態が続いています。住民たちの命、幼い命にも空からの予期できない危険と不安がもたらされています。また米兵による事件も一向に収まることなく続いています。このような沖縄の現状をすべての教会が知り、理解し、軍事力によってではなく、キリストによる平和を願い求めることこそを共通の祈りとしていたいと考えます。

今年の『沖縄週間／沖縄の旅』の主なプログラムは、初日に沖縄県の北部から伊江島に渡り、そこでの戦争体験をお聞きするところから始まります。二日目には「家庭も社会も国も、平和で豊かに暮らすためには、わびあいの心によってしか実現しないとの阿波根昌鴻さんの信念」から名付けられた「わびあいの里」でお話を聞かせ

ていただき、午後は伊江島でのフィールドトリップを計画しております。このフィールドトリップでは、お聞かせていただいた戦争の悲惨さ、愚かさを目で見、耳で聞いて、心で感じ、すべてのいのちのために祈る時としたいと思っています。三日目には午前中は分宿先の教会で主日礼拝を守り、午後から沖縄教区「慰霊の日」礼拝に出席します。

これまで苦しんでこられた沖縄の皆さん、「自分たちと同じ苦しみを次の世代にまで残さないで」と切に願う沖縄の皆さんに出会ってください。そして聞いてください。「世間がこう言っているから」とか、「自分の周りがこう言っているから」とか、そういうことで沖縄の実情を自分勝手に判断しないでください。皆さんの目と耳と心で実情を見て、聞いて、感じることで『何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい』との聖パウロの言葉を思い巡らす時を共に過ごしましょう。たくさんの方々の、特にまだ参加されたことのない方々、若い世代の方々の参加をお待ちしております。

## 「カルト問題キリスト教連絡会」と

### 「マイノリティ宣教センター」との関わり

管区宣教主査 司祭 卓 志雄

神に象って創られた人間の尊厳が抑圧される時、さまざまな困難や悲しみ、孤独の中で、怯えている人々がいる。彼らの声に耳を傾けて、神からの癒しと救いを求めながら彼らと共に歩んで行くことは、わたしたちキリスト者の大事な生き方である。

現在、救い主であるイエス・キリストを否定し教会を分裂させ、また社会的問題を起こしているカルト団体によって多くの人々が苦しみ悲しんでいる。また人種、国籍、出身国、民族、障害、宗教、性的指向、性別などの少数者に対して、暴力や差別をあおったり、おとしめたりする個人、団体によって多くの人々が苦しみ悲しんでいる。

日本聖公会はこれらの問題に対してキリスト教の諸教派と連帯して取り組んでいる。「カルト問題キリスト教連絡会」と「マイノリティ宣教センター」は、その働きの大事な部分である。わたしが日本聖公会との窓口として仕えている2つの団体について紹介しておきたい。

#### カルト問題キリスト教連絡会

日本における統一教会による靈感商法、合同結婚、家出などの社会問題、オウム真理教のサリン事件の後、日本ではいわゆる「カルト」と言われている新しい宗教団体に対する警戒心が強くなっている。意図的に犯罪を起こし、多くの人びとの生命、財産、身体、そして心を傷つける「カルト団体」が、実はごく少数の一部の集団であるにもかかわらず、暴力的で反社会的な活動をするカルト集団のせいで「宗教」という言葉は、否定的な判断を受けており、聖公会をはじめとするキリスト教の宣教において大きな障害になっているとも言える。

日本のキリスト教界では統一教会、オウム真理教など問題性の宗教団体によって起こる社会

的問題に対処するために2004年10月「統一協会問題キリスト教連絡会」を組織し積極的な活動をしている。「統一協会問題キリスト教連絡会」は、日本基督教団、カトリック中央協議会、日本聖公会、日本福音ルーテル教会、日本バプテスト連盟、在日大韓基督教会など超教派で構成されていたが、最近では、統一教会だけでなく、様々な団体による被害が増えている現実を勘案し、「統一協会問題キリスト教連絡会」は、2015年末に名称を「カルト問題キリスト教連絡会」と変えて、その活動の幅を広げている。各参加教派の相談窓口寄せられてきた相談事例を検証し、それらへの対応を検討して、その検討を踏まえて、さまざまな議論のある団体について、適切な注意を喚起し、また被害を未然に防ぐための予防策を提案している。また定期的な会合を通して各教派の相談状況、活動状況、情報を共有しており、それぞれの教派が解決できない問題については、エキュメニカルレベルで力を合わせて対処している。

世界的にはドイツ、フランス、韓国、バチカンなどのキリスト教関係者に対して日本におけるカルト団体による被害を訴えてきた。そして連合活動の一環として、「これが素顔!」という冊子を発行して、日本全国の中高生、大学生をはじめとする青年たちが属している学校、教会に配布して、問題の団体に対して警戒心を強めている。この冊子は、本来、統一教会を中心に編集されたが、宗教による問題が、複数の団体によって起こっている状況の中で、冊子の付録として「各教派の相談会で最近増えつつある統一協会以外のキリスト教系団体」というページを追加した。

#### マイノリティ宣教センター

2015年11月日本のキリスト教会は、世界のキリスト教会に呼びかけて第3回マイノリティ宣教





国際会議を開催した。この国際会議で日本の教会は、日本においてマイノリティに対する差別と憎悪が蔓延する現状をのりこえていくために、国内・海外の諸教会との連携を深め、キリスト者として和解と共生を実践するために「マイノリティ宣教センター」を2017年4月設立した。現在、日本キリスト教会、日本バプテスト連盟、日本バプテスト同盟、在日大韓基督教会、在日本韓国YMCA、日本キリスト教協議会、日本聖公会、日本基督教団、公益財団法人ウェスレー財団などの教派、団体がマイノリティ宣教センターに関わっている。

「共生のための天幕をひろげよう」を合言葉としているマイノリティ宣教センターは、4つの取り組みを軸に、この社会が多民族・多文化共生の豊かに根づく平和な社会となることをめざしている。4つの取り組みは以下の通りである。

(A) 人種主義との闘い：①マイノリティ円卓会議、②「国際人種差別撤廃デー」(3月21日)、③海外教会との連帯、④日本の法制度実現と国際人権活動

(B) ユース・プログラム：①マイノリティ・ユース・

フォーラム、②「青年と宣教」のための作業部会、③カフェの開催、④日本・在日教会の青年リーダーシップ育成プログラム

(C) 和解と平和のスピリチュアリティ開発：①聖書研究フォーラム、②合同フェスティバル企画

(D) 国内外への発信：①広報誌『センター通信』(年4回、日本語・英語)、②『マイノリティ情報・研究』(年1回、日本語・英語)、③ブックレット/リーフレットの発行(年1~2冊)、④インターネット(ホームページ運用、SNSでの広報)



マイノリティ宣教センターのロゴマーク

マイノリティ宣教センターのロゴマークについて説明すると、Center for Minority Issues and Missionの文字が囲んでいるのは、イエス・キリストの荊の冠である。これは、わたしたちの罪の象徴であり、イエスがつねに虐げられた者とともにおられたこと、そしてともに苦しんでおられることの象徴である。荊の冠の内部に描かれているのは、「エッサイの株」。あらゆる破壊の後にも、切り株から主が残された新しい芽が萌え出るとの聖書(イザヤ書 11 章)をモチーフにしたものである。

これからも祈りに伴う行動に基づいたエキュ

メニカルな連帯を通して、「カルト問題キリスト教連絡会」はカルト団体に対する「予防」と「研究」、カルト団体による被害者に対する「ケア」という次元で多角的な活動を展開していきたい。また「マイノリティ宣教センター」は近年日本に蔓延し、今も止むことのないヘイトスピーチを根絶するために、また日本におけるマイノリティ排除に抗して、日本の諸教会及び団体がこれを宣教の課題として掲げ、神様が指し示す共生社会の構築を目指すために、協議し実践するプラットフォームを作ることを目指していきたい。

## タンザニア・アルーシャ世界宣教伝道会議に参加して

一周縁からの宣教、変革をもたらす主の弟子となることー

管区渉外主査 司祭 西原廉太(中部教区・立教大学)

2018年3月8日から13日にかけて、タンザニア・アルーシャにおいて、「世界教会協議会」(The World Council of Churches: WCC)「世界宣教伝道会議」(Conference on World Mission and Evangelism)が開催された。「霊に導かれて進むことー変革をもたらす主の弟子となることへの招き」という主題のもと、世界中から約1000名が参加した。日本からは筆者(日本聖公会)以外に、日本基督教団、在日大韓キリスト教会、その他含めて11名がアルーシャに赴いた。

WCC世界宣教伝道会議の源流は、1910年にエジンバラで開催された「世界宣教会議」に遡る。その後、世界宣教会議は、約7年から10年の間隔で開催され、今回の「アルーシャ世界宣教伝道会議」は、このような歴史的系譜の中に位置づけられなければならないものである。今回の会議のキーワードは、周縁からの宣教、変革をもたらす主の弟子(discipleship)となること、であり、会議最終日には、世界の諸教会に向けた宣言を満場一致で採択した。以下、その一部を紹介するが、私たち日本聖公会も、私た

ち独自の状況、文脈からの積極的な応答を試みたい。

『主の弟子であるためのアルーシャからの呼びかけ』(The Arusha Call to Discipleship)

私たちは、いくらかの希望の光を認識しつつも、私たちはまた、世界秩序を揺るがし、多くの人々に苦しみを与える、命を脅かす諸力について思い巡らさなければなりません。私たちは、少数の者たちを豊かにし、多数の人々を貧困に追いやる、一つの地球規模の経済システムがもたらす驚くべき富の集中について考えました。これは、今日における多くの戦争、紛争、環境をめぐる惨状、そして、苦難の原因ともなっているものです。私たちは、周縁に置かれた人々が、最も重い負荷を担わされていることを、心に留めています。このグローバルかつ帝国主義的なシステムは、金融市場を、現代における偶像神としました。そしてそれは、多くの人々を周縁化し、排除し続け、彼女、彼らを、弱さと搾取とい

う状況の中に置き続ける、支配と差別の文化を強化してきたのです。

多くの人々が、絶望、拒絶、孤独、そして、無価値とされることに晒される世界の中で、私たちは、洗礼によって、変革をもたらす主の弟子として、キリストに結ばれた生き方を選び取るよう招かれています。

多くの人々が、死をもたらす偶像の神々の犠牲とされ、また、未だ多くの人々が福音を聴いていないこの暴力的な世界の中であって、私たちは、いのちの豊かさ、罪の悔い改めと赦し、そして、永遠のいのちを約束されるイエス・キリストの良き知らせを、言葉と行いによって、宣べ伝えるようにと招かれています。

私たちは、周縁に置かれた人々に、正義と尊厳の実現の担い手として力を与えられる聖霊の働きに、喜びをもってつらなるようにと招かれています。

周縁化と排除によって成り立っている世界において、私たちは、公正で包摂的な共同体であることにおいて、私たちの一致の探求において、そしてエキュメニカルな旅において、主の弟子として固く手を取り合うよう招かれています。

権力、富、拝金の文化に特権を与える世界の中であって、キリストの道を実践する、仕える導き手となるようにと招かれています。

移民、難民、そして、亡命を希望している人々など、財産を奪われ、自分たちの故郷から追放された人々と共に、壁を打ち壊し、正義を求めるようにと招かれています。また、分裂や死をもた

らす新たな国境や境界線の建設に抵抗するようにと招かれています。

私たちは、エリート主義、特権社会、個人的かつ構造的な権力に挑戦する十字架の道行きに従うようにと招かれています。

私たちは、変革への希望に満ちた可能性をもたらす、復活の光の内に生きるようにと招かれています。

これは、変革をもたらす主の弟子となることへの招きです。

これは、私たち自身の力で応えることのできる招きではありません。それゆえ、この招きは、最終的には、祈りへの招きへと繋がります。

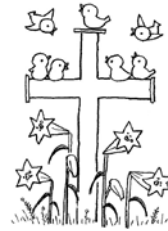
これは、私たち自身の力で応えることのできる招きではありません。それゆえ、この招きは、最終的には、祈りへの招きへと繋がります。

愛する神よ、あらゆる多様性と美しさの内に、いのちの賜物を与えてくださったことを感謝します。十字架につけられ、ご復活なされた主イエス・キリストよ、あなたが、失われた者を探し求め、抑圧された者を自由にし、病める者を癒し、自己中心的な者を回心させるために来られたことを賛美します。聖霊なる神よ、あなたが、この世の生きとし生けるものに息を吹き込まれ、私たちの心の内に注がれたことを喜びます。

あなたの霊の中で生き、あなたの霊の内に歩



ませてください。私たちが、自らの十字架を担い、主イエスに従い、この時代における正義と平和の巡礼者となることができるように、私たちに信仰と勇気をお与えください。あなたにつらなる者を祝福してください。この地球を支えてください。主の御名に御栄がありますように。私たちの主キリストを通して祈ります。 アーメン



## 世界の聖公会の動向

- ・聖公会と東方諸教会の歴史的合意
- ・ロンドンの新しい100教会

管区渉外主事  
司祭 ポール・トルハースト

### ○ 聖公会と東方諸教会が聖霊に関する歴史的合意をダブリンにて締結

聖公会 (Anglican Communion) と東方諸教会 (Oriental Orthodox Churches) の神学者たちは、最近、聖霊 (Holy Spirit) に関する歴史的合意に署名した。『精霊の発出と働き』 (Procession and Work of the Holy Spirit) に記載される合意声明に達するまで2年の月日を要している。

彼らの2015年の会議では、聖霊の「発出 (procession)」について議論し、「フィリオクエ (Filioque)」句の省略に同意した。これは西欧ラテン系の伝統によってニカイア信条に付け加えられた句で、東方諸教会と聖公会の伝統に引き継がれる西側教会との間で分裂を引き起こした。聖霊が父と同様に「子 (イエス) から」生じることを示す。昨年、神学者たちはレバノンの会議で、聖霊論や「聖霊解釈論 (エコノミア)」を中心に活動を続けた。

今年、委員会のメンバーは両セクションのテキストを確定し、合意文書が2018年10月に公表される予定である。

合意文書は以下のとおり記されている。「我々は、聖書に基づいてニカイア・コンスタンティノポリス信条が聖霊の永遠の行列を暗示することを意図していると認める。したがって、東方諸教会はフィリオクエの追加については、三位一体の秩序を破り、父と子と聖霊の両方の源泉、原因、原理としての役割が疑問視されるため誤りであるとみなしている。

しかし、聖公会の伝統において、フィリオクエの句を「補完的なものであり、不規則に信条の中に入れられ、正式な認可を欠いている」と見なししている。

これは、聖公会と東方諸教会のモスクワ合意声明 (1976年) とそれに続く信条への挿入の不適切さを示す声明をもたらした。

1976年のモスクワ合意声明に続いて、聖公会は、「フィリオクエ句はこの信条に含まれるべきではない」と同意した。

ダブリン協定には次のとおり記されている。「聖書は水、火、風の鮮やかなイメージの働きとして聖霊を語ります。聖霊は教会で語り、内面の快適さの領域から外部の関わり領域に動かす。聖霊は歴史的な過去に見出され、変化する世界で将来の責任につながる記憶の贖いの理解の中でダイナミックな力として働く。

強制的に置き換えられる世界、加速された動きの世界、戦争で断片化されて勇敢な殉教が尊ばれる世界において聖霊は時間と空間を超越しているが、双方に生きている。

同じ御霊が任務に送られ、弱い者を強くし、謙虚な者に勇気づける力を与え、貧しい者を慰

め、祝福し、信仰と希望と愛の中ですべてのことを新しいものにする三位一体の神の摂理と恵みによって支えられている。

ダブリン合意は、東方諸教会と聖公会の「関係当局」に「彼らの配慮と行動のために」提出される。

聖公会では、これは今後の聖公会諮問協議会(Anglican Consultative Council)とランバース会議の会合で議題とされることが期待されている。

### ○ 40年で初の目的建設による教会からロンドンの新しい100教会のためのビジョンが始まる

エドモントンの主教がロンドンに新しい教会をささげた。これは40年にわたるロンドン教区において初めて特別な目的のためにつくられた教会である。

新たな「エンジンルーム」に設置された聖フランシス教会は、テムズ川の北方に位置しロンドンの一部をカバーしており、100の新しいキリスト教

徒のコミュニティーが教区に発足することという野心的な計画が組み込まれている。

市内の他の地域では、1970年代に建てられたスイスコテージ風の聖トリニティ教会が解体され、1100万ポンドをかけて6階建て複合施設(450人収容の公会堂、録音スタジオ、虐げられた若者のための宿泊施設などを含む)への建て替えが計画されている。

新しい教会とコミュニティセンターはこの地域の再生プロジェクトの一環として建設され、800の新しい家屋の建設も進められている。

先月、教区の聖職者が集う最大規模の「ロンドン聖職者サミット」に600名の聖職者が出席し、「キャピタル・ビジョン2020」の一環として今後3年間で新しい聖職候補生の数を50%増やすという教区の目標をどのように実施するかについて協議し、祈りをささげた。

このビジョンには、街に新しい100のクリスチャンコミュニティを設置するという目標が含まれている。

## 再録

### 「サバティカル」報告

—沖縄教区の研修休暇制度—

沖縄教区時報

2018年2月号(616号)より

2016年の高良孝太郎司祭に続き、昨年10月、姜勇求司祭が教区のサバティカル制度を利用し、1か月のサバティカル期間を過ごされました。

\*\*\*\*\*

教区の研修休暇(サバティカル休暇)制度により、昨年10月17日から1か月間研修休暇を取らせて頂いた。10月17日韓国のソウルに渡航し、1週間後の10月24日から11月14日まで21泊22日の旅程でイギリスとアイルランドを訪れた。

イギリスの主要な都市で聖公会の諸聖堂を巡礼しながら黙想と祈りの旅をし、リトリートとリフレッシュの機会とすべく、約3週間の滞在期間中、カンタベリー大聖堂やエディンバラ大聖堂始めいくつかの大聖堂や英語圏最古の7大学のうちオックスフォード、ケンブリッジ、ダブリン大学等、英国の歴史、文化を感じさせる様々な建造物、施設を訪ねた。

3度目の主日はリヴァプール大聖堂、聖パトリック大聖堂、ウエストミンスター寺院において礼拝に参加した。英国聖公会の聖堂としてはヨーロッパ最大規模を誇るリヴァプール大聖堂は、9700本ものパイプを使用した大きなパイプオルガンがあり、その奏でる音が聖歌隊のコーラスと共に深く響き渡っていた。また100mを超える巨大なホール的美しさも惚れ惚れするほどであった。ダブリンの聖パトリック大聖堂は、1191年に創設されたアイルランド島全体で最大の教会である。またロンドンのウエストミンスター寺院

はイングランド国教会の教会で、国会議事堂が隣接している。戴冠式などの王室行事が執り行われる教会で、内部の壁と床には歴代の王や王女、政治家などが多数埋葬されていた。

いずれにおいても荘厳で壮麗な聖堂内の雰囲気、清らかな心を取り戻してくれるような感覚にとらわれるとともに壮大さに迫力も感じられた。

良い時間を過ごさせてくださった神様に感謝を捧げる。またこういう機会を与えて下さった上原主教様を始めとして沖縄教区の皆さんに感謝いたします。

司祭 パトリック姜 勇求

\*\*\*\*\*

今回、夫パトリック姜勇求司祭がサバティカル休暇を得た事に伴い、一緒にイギリスでの研修に参加できたことを神さまに感謝いたします。

そしてこういう良い機会を与えてくださった上原主教様に、また沖縄教区の皆さんに感謝いたします、

イギリスの聖公会の聖堂はその規模においても美しさにおいても本当に素晴らしかったです。

何百年も前に建てられた歴史的な聖堂。今日ではそういう聖堂を建築することが多分不可能ではないかと思いました。

一方、主日礼拝に出席してみると、僅かな信徒たちと何名かの観光客だけが席について、ほとんどの席は空いていました。昔は聖堂いっぱい信徒が満席で礼拝を捧げたでしょう。なんで今はこんなに信徒が減ってしまったのか、残念で寂しい感じがしました。ある聖堂では入場料を受けていました。聖堂が観光の場所となっていることにもさびしい感じを止めざるを得ませんでした。

でもイギリスではもちろん、世界のどこの聖公会に行っても、同じ流れ、同じ内容の礼式によって礼拝を捧げることが出来るのはすごく親しい感じがしますし、本当に良いことだなあと改めて思いました。

良い勉強の時間、良い休みの時間が与えられたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

主に感謝。

マーガレット高 英珠

## BSA 創立 90 周年記念誌

### 『希望のBSAをめざして』が発刊されました！

日本聖徒アンデレ同胞会（BSA）は昨年創立90周年を迎え、記念総会を開催し、東京聖アンデレ主教座聖堂で記念礼拝を捧げました。記念誌はこの日の植松誠首座主教の記念説教の全文、日本聖公会全11教区主教のメッセージ、多くの聖職の方々から寄せられた期待と助言が掲載されています。その他構成はBSAこの20年の年表、20年を振り返る座談会、1992年から19回に及ぶキリシタン遺跡探訪のまとめ、会員の投稿による、「BSAと私」「課題と提言」、ポール・ラッシュの思い出、支部の紹介などになっております。（A4判カラー印刷・94ページ）。

記念誌は4月初旬に各正会員、賛助会員、および機関紙「VISION」が送られている教会、

関連団体に送られる予定です。一人でも多くの方にお読みいただき、BSAのこれからについてご助言をいただければ幸いです。記念誌を御希望される方、また追加送付の希望は次のメールをご利用ください。（e-mail: bsa@nsskk.org）

なお、2月24日の第102総会後の理事会で、新会長に足立征三郎（東京・聖マーガレット教会）、新副会長に尾崎茂雄（横浜聖アンデレ教会）、木島出（東京・阿佐ヶ谷聖ペテロ教会）の諸兄を選出しました。これからのBSAを、どうぞよろしく願いいたします。

BSA 90周年記念誌編集担当理事 永井信行



## 新たに「BSA 通信」を発行

BSA通信第1号(2018年3月25日発行)

主の平和

平素は日本聖徒アンデレ同胞会(BSA)にご支援とご理解を賜りありがとうございます。BSAの新体制の発足に伴い、「BSA 通信」(不定期)を発行し、いっそうのご理解とご支援をお願い申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。 在 主

新会長に足立征三郎兄(聖マーガレット教会)、副会長に尾崎茂雄兄(横浜聖アンデレ教会)、木島 出兄(阿佐ヶ谷聖ペテロ教会)を選出。

一般社団法人日本聖徒アンデレ同胞会(BSA)は、2月24日(土)に東京教区会館で第102総会を開き、新しく14名の理事と2名の監事を選出しました。

そして続いて開かれた理事会において、次期会長に足立征三郎兄(聖マーガレット教会)、副会長に尾崎茂雄兄(横浜聖アンデレ教会)、木島出(阿佐ヶ谷聖ペテロ教会)を互選しました。

任期は2年です。

なお、BSAは、昨年、創立90周年を迎えましたが、このほど記念誌『希望のBSAをめざして』を、発行しました。A4版94ページです。(内容は前掲記事参照)

参考資料: BSAとは

BSA(Brotherhood of St. Andrew)とは「兄弟のシモンをイエスのところに連れて行った」(ヨハネ 1:42)使徒アンデレの名にちなんで付けられたもので、アメリカで生まれた。アンデレのように「一人が一人を」教会に連れてきて「御国の拡張」をめざす運動を実践してきた。

日本におけるBSAは、アメリカのポール・ラッシュ博士(元立教大学教授)とその仲間たちが青年の育成とキリスト教の伝道のために1927年に設立した男子信徒の会で、昨年創立90周年を迎えた。

また昨年は、ポール・ラッシュの生誕120周年に当たり、彼が設立したキープ協会が中心となって記念コンサートや「わが人生、日本の青年に捧ぐーポール・ラッシュ物語」展など各種の記念イベントを開催した。

BSAの本部は東京教区会館内にあり、現在東京、横浜両教区を中心に全国に203人の正会員と81人の賛助会員を擁している。さらに日本聖公会の植松誠首座主教を名誉会長に推薦しているほか、全国に16ある支部の関係教会の牧師をチャプレンに委嘱している。

会員はそれぞれの教会で「祈祷と奉仕」をモットーに、礼拝や教会の諸活動を通じて奉仕活動に励んでいる。

BSAについてのお問い合わせは、

105-0011 東京都港区芝公園3-6-18 東京教区会館内

日本聖徒アンデレ同胞会(BSA) 本部までお願いいたします。

電話: 03-3436-4325、fax: 03-3432-1696

e-mail: bsa@nssk.org まで、どうぞ。

(記・BSA通信担当理事 吉松英美)

## この春、上京した青年に向けて 東京教区青年会からの呼びかけ

東京教区青年会からご挨拶させていただきます。

2014年10月に活動を開始、4年目に入った集まりですが、現在は東京諸聖徒教会に拠点を置き、月に一度の「例会」（聖書を一緒に読み、礼拝で締めくくる土曜日の午後）を中心に活動をしています。例会を軸としながらも、参加者が自発的に企画したイベントや活動も、出来る限り取り入れ実施できるような柔軟性を目指しています。

18歳（高校卒業後）から35歳までの青年を対象とし、「交流」「学び」「奉仕」の3つを主軸にしていますが、すでに教会に繋がっている青年だけではなく、様々な理由で教会を離れた青年たち、また教会に足を踏み入れたことのない人々も含め、教会や教区、他教区とも連携しながら、勉強会や話し合いなどを中心としたプログラムを、これからも行いたいと考えています。

この春、就職や就学のために都内近辺に移り住む青年がおられると思いますが、東京教区

青年会は、同世代の青年との出会いの場、共に成長する場となるような「受け皿」を設けるだけではなく、困った時や不安な時にお互いを支え合う仲間にもなりたと思っています。そしていつか東京を離れる時が来たら、精神的靈的財産たる様々な信仰生活体験、また豊かな友人の輪を携えて、より広い世界へと踏み出していけるよう支えたいと願っています。

このような目的で活動している東京教区青年会をお祈りのうちにお覚えいただき、機会がありましたら、該当の青年にご案内いただけると幸いです。そして、3月24日（土）でも4月28日（土）でも、14時からの例会に、新しい仲間をお迎えできればと祈っております。どうぞよろしく願いいたします。

2018年3月大斎節  
東京教区青年会世話人会一同  
問い合わせ／連絡先：  
seinenkai.tko@gmail.com



憲法記念日を迎えて共に祈ろう



日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。